

# 安全運転



## NEWS

2011年12月号

### 今月のクイズ

体重60kgの男性が、午後の6時半に350mlの缶ビールを2本飲んだとき、血中からアルコールが消えると思われるのは次のどの時間になるでしょうか？（答えは裏面）

- ①午後9時ごろ
- ②午後11時ごろ（※個人差があります）



TOKIO MARINE  
NICHIDO

# 飲酒が運転におよぼす影響

各業界団体の飲酒運転根絶キャンペーンや悲惨な事故のニュースなどにより、『お酒を飲むときは運転をしない』ということが一般的な常識となり、事故の件数も年々減少してきています。しかし、その数が「0」にならないというのが現実です。

今月は、飲酒が運転におよぼす影響についてみてみましょう。

## ◆ 飲酒運転は、死亡につながる悲惨な事故を起こす率が高くなります

平成 22 年中（警察庁データ）に起きた飲酒運転による事故は 5,553 件ありました。そのうち死亡事故の件数は 287 件で、10 年前の 5 分の 1 に減少しました。しかし、全事故の死亡事故率が 0.5%であるのに比べ、飲酒運転による死亡事故率は 5.2%と約 10 倍も高くなっており、依然として飲酒運転は重大事故につながる可能性が高いということがわかります。

さらに、昼夜別の死亡事故の発生状況をみると、全事故の死亡事故件数は昼が 2,397 件で、夜が 2,329 件とあまり変わらないのに比べ、飲酒運転による死亡事故件数は昼が 83 件で、夜になると約 2.5 倍の 204 件に増えています。お酒を楽しむことが多い夜は、周囲が暗くて見通しが悪くなり、結果として重大事故を引き起こしています。

また、飲酒運転による死亡事故件数の内容をみると、千鳥足状態である「酒酔い」（※1）は 35 件ですが、受け答えはできるが体にアルコールが残っている状態の「酒気帯び」（※2）と「基準以下」（※3）は合わせて 221 件と多く、全体の 77.0%も占めています。飲酒しているにもかかわらず運転し、重大事故を起こすケースが多いことがわかります。



- ※1「酒酔い」アルコールの影響により車両等の正常な運転ができない状態
- ※2「酒気帯び」酒気を帯びて、呼気中アルコール濃度 0.15mg/l 以上ある状態
- ※3「基準以下」酒気を帯びているが、「酒気帯び」の基準値未満の状態

## ◆ 「もう酔いは醒めたから…」は本当に醒めているのか

楽しい仲間と飲むお酒は、開放的で愉快的な気分させてくれます。それはアルコールが体内に入ると、血液によって体を駆け巡り、脳を麻痺させるため理性が働きにくくなるためです。しかし、飲酒後 30 分くらい経過すると血中のアルコール濃度は徐々に下がり、酔いが醒めたように感じられます。たとえば、2 時間も経過すると、「酔いは完全に醒めた」と考えるかも知れませんが、実際に体重 60kg の成人男性が 500ml のビールを飲みアルコールが体外にでるまでには 3 ～ 4 時間かかります。お酒の量が増えれば、それだけアルコールが消失するまでの時間も延びます。（※人により個人差があります。）

また、血中にアルコールが残っている状態では、多少なりとも理性の働きを妨げる状態が続いているので、気持ちが大きくなっており、「もう大丈夫」と思い込んだり、「酔いは醒めた」と安易に判断してしまうことがあります。

お酒を飲むときは運転を止め、飲酒量が多いときは次の日も運転を控えましょう。

## ◆血中にアルコールが残っていると、運転に影響が出てきます

本人は酔いが醒めたと思っていても、血中にアルコールが残っている状態にあると、多少なりとも脳は麻痺しており、脳からの命令を伝える神経の働きが抑えられているので、運転に必要な各機能の働きが鈍くなっています。

たとえば、普段は目前にカーブが迫れば、速度を落としてハンドルを適切にきることができます。しかし、血中にアルコールが残っている状態では、「危ない」と気づくのが一瞬遅れることがあり、適切な対応ができず、あわててハンドルをきりすぎたり、急ブレーキをかけたりと、運転すること自体が危険な状態です。

### 集中力が鈍り、変化する交通状況に対応できなくなります

運転に集中しにくくなり、ぼんやりして危険を見逃したり、察知するのが遅れるなど、運転操作が追いつかず事故を起こしやすくなります。

### 居眠り運転をする危険があります

緊張が解けた状態になっているので、眠気が生じてきます。特に疲れが溜まっていたり、周囲が暗くなり交通量が減る夜間などは、居眠り運転をしてしまう危険があります。

### 判断ミスを起こしやすくなります

周囲の状況を把握し、適切な判断を行う能力が鈍り、ミスを起こしやすくなります。また、考える力も鈍っているので、安易な判断を下してしまうことがあり、非常に危険です。

### 目で危険をとらえることが難しくなります

視野が狭くなり、眼球運動が鈍るので、動体視力や、遠近感を測る機能も低下します。正常なときと比べて、標識や信号などを見つけたり、危険を目でとらえることが難しい状態になります。

特に、夜間は見通しが悪くなるうえに、対向車のライトで目がくらんだあと正常に見えるようになるまで時間がかかるなど、目視で確認できない状況が生じるので危険です。

### 自制心がきかなくなり、運転が乱暴になります

理性の働きが妨げられた状態にあると、緊張感が薄れスピードを出しすぎたり、運転が乱暴になる傾向があり、危険な運転を繰り返してしまいます。

### ハンドルやスピードの適切なコントロールができなくなります

運動機能が低下するため、操作が荒くなり、ハンドルやスピードの適切なコントロールができなくなります。蛇行して運転したり、停止線を越えて止まったりすることがあり危険です。

**飲酒量にかかわらず、血中のアルコールは  
運転に大きな影響を与えます。  
飲酒運転は非常に危険です。  
お酒を飲むなら運転は止めましょう。**

今月のクイズの答え

②午後11時ごろ  
(※個人差があります)

ご用命・ご相談は・・・

「やすらぎ」の設計が私たちの使命です。

**保険システム株式会社**  
INSURANCE SYSTEM CO., LTD

〒950-0087

新潟市中央区東大通2-4-1 新潟パナソニックビル6F

TEL 025-243-7374 FAX 025-243-0921

E-MAIL yasuragi@hokensystem.co.jp

URL <http://www.hokensystem.co.jp>



**東京海上日動火災保険株式会社**

企業営業開発部

〒100-8050 東京都千代田区丸の内 1-2-1

TEL 03-5288-6589 FAX 03-5288-6590

URL <http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/>

担当営業課